



【基本施策の目的】

水害が起こりにくく、また、水害が発生した場合でも、その被害を最小限に抑制し、市民の貴重な生命と財産を守ります。

【基本施策の今後の優先度】

中 本市でも記録的豪雨が頻発し、住宅浸水被害などの災害が発生している状況を踏まえて、本市における浸水リスクを低減し、治水安全度を高め、住民生活の安心・安全の向上に努め、水害に強いまちづくりを推進する必要があります。
このように、当該基本施策について、今後も、力強く取り組んでいく必要があることや、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「中」と判断した。

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応	
床上浸水の被害戸数	戸	実績	0	0	0	0	台風やゲリラ豪雨などによる時間最大降雨量が少なかったため、床上浸水被害が発生しなかったと考えられる。	近年、大雨による浸水被害は見られないが、過去の浸水被害区域を解消するために計画的に実施している事業であり、継続する必要がある。	
		目指す方向性	0戸						
展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 浸水区域を解消します	排水ポンプ場処理流域における床上、床下浸水の被害戸数	戸	実績	0	0	0	0	降雨による排水ポンプの稼働が、藤島ポンプ場で12日、自オポンプ場は2日あった。不具合なく適切に排水ポンプ稼働したことにより、浸水被害が発生しなかったと考えられる。	近年、大雨による浸水被害は見られないが、今後も「新川流域水害対策計画」に基づき、事業を継続する必要がある。
			目指す方向性	0戸					
2 河川への雨水流出を抑制します	床上、床下浸水の被害戸数	戸	実績	22	1	0	0	台風やゲリラ豪雨などによる時間最大降雨量が少なかったため、床上浸水被害が発生しなかったと考えられる。	近年、大雨による浸水被害は見られないが、今後も「新川流域水害対策計画」に基づき、事業を継続する必要がある。
			目指す方向性						
2 河川への雨水流出を抑制します	雨水貯留率	%	実績	41.0	44.1	54.7	57.1	計画通りに進捗している。今後も雨水貯留量の目標値19,500㎡に向けて整備を進めていく。	貯留施設設置については、平成28年度より事業に係る費用等を2か年に1ヶ所の設置としてが、浸水対策として有効な手段であるため、引き続き事業を実施して行く
			目指す方向性						

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	その他の河川水路整備事業において、老朽化により改修を求められている河川水路について、整備手法の検討や改修スケジュールの見直しなど行うことにより、事業費の一部を削減する。
		展開方向2	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。